

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200920		
法人名	有限会社 龍 泉		
事業所名	グループホーム秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733番地		
自己評価作成日	令和元年11月11日	評価結果市町受理日	令和2年5月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和1年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の建物は現代建築による高い天井や天窓からの自然な光や風を取り込むことができ、開放感を感じ心が和む造りとなっています。現代社会が忘れかけている家族の温かさを大切にして、ひとつ屋根の下で違った個性を持った人々が集まり生活をする。利用者は私達の父であり母としての対応を心掛け、また利用者同士は兄弟姉妹としての対応を心掛ける。私達が目指す「大家族主義」の理念を基に共同生活住居(グループホーム)において、食事や排泄、入浴等の介護や日常生活上のお世話をを行う際、能力に応じて手を出し過ぎないようにして自立した生活が送れるように取り組んでいます。またご家族や地域の住民とも季節ごとの行事や会議、面会を通じて交流を図り、信頼関係作りを努めて、施設運営において協力を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では行事や健康づくりのポイントを記録した、地域向けの事業所便りを作成され、毎月自治会各班に発信しておられます。この情報発信は1年間休刊されていたものを地域からの要望を受けて再び発信されています。事業所行事の紹介を通して、法人施設合同の運動会や文化祭、クリスマス会には地域から保育園児から大人まで、多くの参加があり、町主催の花火大会には事業所内で見物できるように場づくりをされて家族や地域の人を招かれています。運営推進会議では参加者の意見をもとに、事業所の毎月の目標評価の報告をされるなど、参加者の意見をサービス向上に役立てておられます。このように、事業所では利用者や家族が地域とつながりながら暮らせるように取り組まれる中で、認知症への理解が深まるよう取り組んでおられます。家族宛に毎月、個人用の事業所便り(写真、利用者の状況、行事等)を送付されたり、面会時には家族が気軽に意見が言える雰囲気づくりをされて、家族は不安なことや心配事を率直に話されるなど、信頼関係を築いておられます。食事は法人栄養士の献立をもとに、三食とも家族や近所の人から差し入れの旬の野菜や新鮮な食材を使って、利用者と一緒に季節感のある食事づくりをされています。利用者や職員は同じテーブルを囲んで、会話を弾ませながら同じもの食べ楽しい食事となるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>自分の家族だとしたらどうするかを考えながら対応することで、事業所の「大家族主義」という理念の共有につながる支援を心掛けている</p>	<p>事業所理念は法人の理念と同一とし、事業所内に掲示している。管理者は地域の中で利用者が自分らしく過ごしてもらうように職員に話している。毎月のユニット会議の中で、利用者が笑顔で暮らしているか、課題にぶつかった時には、自分の家族だったらどうするかを話し合い、共有して理念の実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>利用者には個別の買い物支援や散歩をしながら地域を知って頂く。地域に向けては施設の運営情報を発信して施設運営の内容を知って頂く。季節ごとの行事(花見・花火鑑賞・運動会・避難訓練等)では地域からの参加を頂く、また地域清掃には地域の一員として参加して日常的な交流をしている</p>	<p>職員は年1回の地域の清掃作業(溝掃除、缶拾い、草刈)に参加している。毎月、地域向けの事業所便りを自治会8班に回覧して、行事への参加や時宜に応じた健康づくりのポイントなどを発信している。この情報発信は1年間休刊していたが、地域からの要望を受けて再発行している。利用者は天神様の祭りや法人施設合同の文化祭に職員と一緒に参加している他、法人施設合同の運動会やクリスマス会には、地域の保育園児から大人まで大勢の参加があり、楽しみな交流となっている。町主催の花火大会には事業所内で見物できるように場づくりをして、家族や地域の人を招いて交流している。踊りのボランティアの来訪があり、地元の中学生在が毎年年賀ポスターを持参している。散歩時やスーパーマーケットで買物時、ファミリーレストラン利用時に会う地域の人と挨拶を交わし、花や野菜、果物の差し入れがあるなど、日常的に交流している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて施設内で行った研修の報告や説明を行い、また起きた事故の報告も行いながら、認知症における支援を理解して頂けるように取り組んでいる		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自分達が行っている支援の振り返りや考え方の見直しができることは説明をして理解できていると思うが、具体的な改善に取り組むことまでには至っていない	管理者は評価の意義を職員に説明し、自己評価をするための書類を配布して、記入後、ユニット会議で話し合い、一人ですべてまとめている。職員は自己評価を日頃の支援の振り返りと捉えている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、自己評価を全員で取り組み、事故発生に備えて定期的な研修の実施に取り組むなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みの報告だけでなく入院や事故の報告も行い、意見交換をしている。また代表者からの月ごとの支援の方向を示す指示について説明していたが、推進委員から指示の評価を聞きたいとの意見が出て、会議において評価の報告をして意見を頂きながらサービスの向上が図れるように取り組んでいる。	会議は2カ月に1回開催し、利用者の状況や活動状況、行事予定、自己評価や外部評価報告、職員の研修報告、事故・ヒヤリハット報告、法人の毎月の目標の報告をした後、話し合いをしている。参加者から、毎月の目標達成状況を知りたいという意見があり、評価結果の報告をするなど、そこでの意見を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らないことや困ったことがあれば市町担当者に事業所の実情を正直に伝えて意見を頂くなど、協力関係を築けるように取り組んでいる	市担当者とは電話や直接出かけて、情報交換や運営上の疑義について相談し、助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換をして連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成30年4月に身体拘束廃止委員会を立ち上げ何が禁止されているのか理解できるように定期的に研修を行い、その報告は全職員に向けて発信している。玄関のみから開かない仕組みをとっているが(国道があり危険なため)、外に出たいと言われる場合は職員と一緒に散歩等して拘束感を感じられないように対応している	「身体拘束廃止に係る指針」をつくり、指針を基にした内部研修や、年2回の「虐待の芽チェックリスト」アンケートを通して学び、職員は身体拘束の内容や弊害、虐待等について正しく理解している。職員で構成する「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に1回、開催し、車椅子利用者のベルト等、拘束用具についての検討をしている。外出したい利用者があれば、納得のいくまで一緒に出かけて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になる場合は管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い虐待について学ぶ機会を作っている。皮膚が弱い高齢者は特に身体に痣ができやすいが、発見した場合原因を探り対応方法について検討して支援をしている。対応が難しい利用者に対して、時には職員間で対応を交代する等で職員の精神面の配慮もしながら虐待の防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い後見制度について学ぶ機会を作っている。現在も後見人をつけておられる方1名おられ、状態報告をしながら必要な支援を受けられるように協力関係を築いている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際、理解が得られるように時間をかけて説明を行い納得の上で契約を交わすようにしている。また改定があれば、書面で改定点の説明を全家族に向けて郵送して、不明な点は再度説明を行い同意を得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付体制について説明をしている。また面会時等では家族と話す機会を作りコミュニケーションを図り話しやすい関係作りに努めている。苦情が出た場合、会議にて全職員に内容の説明を行い、検討して、結果については家族に報告している	相談苦情の受付体制、第三者委員、外部受付機関を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時や運営推進会議参加時、年1回の家族親睦会、行事参加時(花火大会、運動会等)に聞いている。毎月1回、家族に、個人宛事業所便り(暮らしの状況や写真、行事予定等)を送付する他、面会時には管理者の方から利用者の様子を話して、意見や要望が言い易い関係づくりに努めている。意見は「苦情処理簿」に記録して職員間で共有してる。他の利用者の洗濯物が混じっていることや職員の対応、居室のクロス破損の負担等についてあり、運営に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議において意見交換をしている。代表者も参加できるように日程調整等、配慮をしている	管理者や代表者は、申し送り時や月1回のユニット会議時に聞いている。日頃から管理者の方から職員に言葉をかけて、意見が言い易いように配慮している。職員からは物品の購入(洗濯機、リクライニング用車椅子)や勤務内容の変更、車椅子利用者の入浴方法についての提案があり、現在、代表者から機械浴機器購入の指示があり、検討をしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足により年間の休みが少なくなったが、給与面で2階級上がる等の配慮があった。資格取得等の努力や実績、勤務状態については一律で評価表を作り給与水準の検討をしております向上心をもって働けるよう条件の整備を進めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足により外部研修を受ける機会を確保できていないのが現状としてあるが、毎月の施設内研修ではその時に必要とした研修ができるように工夫して、働きながらのトレーニングに努めている。資格取得(介護福祉士・ケアマネ)では受験における費用は施設負担で担っている	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は市主催のケアマネージャー研修と医師会主催の皮膚疾患について受講している。受講後は復命をし、ユニット会議で伝達して職員全員が共有している。法人研修は年1回、接遇についてあり、職員全員が参加している。内部研修は年間計画を立て、毎月1回、管理者や職員が講師となって、身体拘束と高齢者虐待、認知症ケア、食中毒、コミュニケーション、人権・尊厳について、基本的身体介護、排泄ケア、緊急時対応、感染予防等を実施している。新人職員は法人で1日間の研修の後、日常業務の中で管理者や先輩職員が指導者となって介護の知識や技術を学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会を立ち上げて研修会を開き同業者と意見交換等で交流する機会を作っている。今年初めて協議会において風船バレー大会を企画し職員だけでなく利用者同士の交流もあり、他施設の活動の様子を知ることができた		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔でご本人と向き合うことを基本としている。事前の情報も参考にしながら、安心感を得られるように視線の高さを合わせて会話するなど、安心して話ができるように努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が何に困って不安になっているのかを把握できるように時間をかけて話をするようにしている。話しやすい環境を作り、信頼関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としていることを見極められるように話を聞くようにしている。必要に応じて訪問看護やボランティア等のインフォーマルな支援も取り入れている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができること、できないことを探り、調理の下処理(野菜の皮むき・ゴミ袋の名前書き)や洗濯物を干したり、たたんだりすることで家庭での生活を思い出していただき、介護されるだけの立場にならないように工夫している		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎週のように面会に来られ、外出して下さる家族がいらっしゃいます。外での様子を教えて頂きながら、会話上で少しでも多く発語が得られるように家族と共に支えていけるように取り組んでいる		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人関係が続けられるように電話を活用して話をしたり面会して頂いている。外出レクなどでは「昔家族で行った」と思い出話に繋がるように計画を立てている	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人、知人の来訪がある他、電話での交流を支援している。事業所から馴染みの商店に買物に出かけている。日頃から住み慣れた地域や観光地等を話題に、思い出してもらえるよう工夫して話しかけている。家族宛に利用者の暮らしの状況を写真入りの「個人用事業所便り」を送付している。家族の協力を得て、結婚式への参加や墓参、外出、外食、一時帰宅等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が車イスを押したり、物を取ってあげたりと助け合いながら関わっていると思う。会話ができる人とそうでない人がおられ、職員が間に入り孤立しないように配慮はしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療が必要となり退居された方がおられた。退院できる頃になり相談を受け、紹介させて頂き他施設への入居が決まることもあり、関係性は大切にしていきたいと思っている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で利用者の生活の様子や身体状態の情報を交換しながら、本人の希望をくみ取れるように関わっている	入居時には事業所独自のアセスメント表を活用して、生活歴やこれまで大切にしてきたものや事柄、嗜好、好きな活動、趣味、これからの暮らし方の希望を聞いている。入居後は日々の関わりの中で利用者の発した言葉や表情、対応を介護記録に記録して、思いの把握に努めている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には家族から聞き取りを行い、生活歴や環境、使ってきたサービスの把握に努めている			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕でバイタルチェックし健康管理している。生活の中で手を出し過ぎないように、自分でできることの把握に努め、できることは自分でして頂いている			
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議で状態の変化を報告して情報の共有して、変化に応じて介護計画の見直しを行っている。家族に対して変化の説明をし、対応策についても報告をして同意を得ている。	管理者、計画作成者を中心に、月1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医の意見を参考にして、話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎、モニタリングを実施し、見直しをする他、利用者の状態や家族の要望に変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は都度記録をして、変わったことがあれば申し送りをして、情報の共有をしている。申し送りノートや個別の医療ノートを作り職員全員が変化を確認できるようにしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に医療面ではかかりつけ医や家族と連携をとり安心して安全に過ごして頂けるように対応している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを利用して楽しみが見いだせるように企画運営をしている。また季節ごとの行事に地域住民を招いて交流を持ちながら生活を楽しむ工夫をしている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医のことは説明した上で、家族の意向を尊重して対応病院を決めてかかりつけ医としている。状態によりかかりつけ医の紹介を得て適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医としている。協力機関がかかりつけ医の場合は、月1回往診がある。他のかかりつけ医や他科受診も含めて、事業所が受診支援をしている。歯科は2、3ヶ月に1回、往診がある。受診結果は医療ノートに記録して職員間で共有し、家族には電話や面会時に伝えている。夜間や休日、緊急時には協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師は配置されていないが、不安な事があれば、かかりつけ医に相談して指示を得るようにしている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院が必要な場合、同行して口頭や書面で本人の普段の生活の様子や精神状態の説明をしている。本人の混乱が少なく、できるだけ早期に退院できるように協力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化があれば都度家族に報告するようにしている。特に重度化した場合、家族との話し合いの場を作り、今後の方向性を決めて支援している	重度化した場合に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から本人・家族の意向を聞き、主治医や関係者と話し合いをして、医療機関や他施設への移設も含めて支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	定期的に応急手当や対応の訓練を行っている。実践力がつくように定期的な訓練を続けていきたい	事例が発生した場合は、ヒヤリハット、事故報告書に原因、対応、予防策を記録し、申し送り時に回覧して周知している。月1回のユニット会議時に、再度話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生に備えて、転倒、窒息、誤薬、意識不明、AEDの使用方法等の実践研修をしているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は火災避難訓練を行い、内1回は夜間想定訓練としている。地震や水害等の訓練は年1回行うようにしている。火災避難訓練には地域住民も参加して頂いているが、運営推進会議でも他の地域住民にも参加して頂けるように呼び掛けている	年2回(1回は消防署の協力を得て)、昼夜の火災を想定した避難訓練、通報訓練、消火器の使い方、避難経路の確認等を、利用者と一緒に実施している。運営推進会議の中では、訓練への参加や連絡網等について話し合いをしているが、協力体制を築くまでには至っていない。非常用食品やガスボンベを備蓄している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定しない声かけを工夫している。スピーチロックの研修において、プラス一声を心掛けるようにして否定でなく自己選択できるようにしながら、誇りを損ねないように心掛けている	職員は法人研修(接遇)や内部研修(スピーチロック、コミュニケーションなど)で学び、一人ひとりの人格を尊重し、言葉を否定しないで、尊敬の念を持って、言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、管理者が指導している。個人記録の取り扱いに留意し、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服選びなどでは2枚出して自分で好きな方を選ぶなどの自己決定できるように働きかけをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でなく、利用者の動きに合わせて動くようにしながら、会話で関わり思いを持ち、利用者の思いを聞くようにしている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好きな服を着て頂くが、季節が外れないように衣替え等の対応をしている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、お茶出しなど、できる事をして頂いている。食事は職員と一緒に同じテーブルを囲んで会話しながら、楽しく食事をして頂いている	法人の栄養士による季節感を大切にした献立をもとに、家族や近所の人から差し入れの旬の野菜や新鮮な食材を使って、3食とも事業所で食事づくりをしている。食べ易いように形態の工夫や自助具、食器の工夫をし、好みに合わせて食品交換をして提供している。利用者は野菜の下ごしらえ(さやえんどうの筋をとる、玉ねぎの皮を剥く)やお茶の袋詰め、テーブル拭き、下膳、トレー拭きなど、できることを職員と一緒にしている。職員も同じテーブルについて食材の話をしながら同じものを食べている。天気の良い日には外庭での食事や、公園に出かけて食事をするなどの戸外食、寿司とケーキのつく誕生日食、バイキング形式の食事、季節行事食(おせち料理、節句の寿司、土用の鰻、ソーメン流し、松茸、年越しそば、雑煮)の他、家族の協力を得て外食等、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てたバランスの取れた食事を提供している。水分は味や熱い、冷たいも変えて提供している。時には本人の自室で提供するなどの工夫もして必要量が確保できるように支援をしている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけでできる方、洗面所まで案内してできる方、歯ブラシを渡して口までもっていく方と本人の力を見極めながら対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用している。一人ひとりの尿量を見極めながら、次のタイミングを図り、トイレで排泄できるように、声かけや案内をして対応している	排泄チェック表を参考にして、排泄パターンを把握し、不安や羞恥心に配慮した言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が不足して便秘にならないように摂取量は記録して確認をしている。便秘がちな方は医師に相談して下剤服用をして排泄の促しをしている		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に個人の入浴の曜日は決めているが、排泄の失敗があった方などは優先的に入浴の声かけして対応している。入浴して気持ち良かったの声が出るように、ゆっくりと時間をとって対応している	入浴は14時から16時までの間毎日入浴できる。順番や湯加減、季節の柚子湯等、一人ひとりの希望に応じてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、介助者の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、手浴、シャワー浴、部分浴、シャワーチェアの活用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	離床を心掛けているが、夜間の睡眠状態等は申し送りを行い休息をとるようにしている。寝る前には居室の温度管理(冷暖房)を行い眠りやすい環境を作っている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が配薬しやすいように薬の一包化をして頂いている。症状の変化があれば必ず個人個人の医療ノートに記載し何の薬が処方され、いつ服用するかなどの確認ができるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物がたたみたい方、タオルはたためる方、名前を書ける方と役割分担しながら対応させて頂いている	居室の床掃除やゴミ袋に名前を書く、洗濯物を干す、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、カーテンの開閉、花を生ける、花瓶の水を換える、繕いもの、テレビやDVDの視聴、新聞、雑誌、本を読む、歌を歌う、かるた、壁画作り、しりとり、クイズ、風船バレー、輪投、ラジオ体操、リハビリ体操、テレビ体操、口腔体操、脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル、4字熟語、間違い探し)、季節行事(文化祭、祭り、花火大会、敬老会、運動会)、ボランティアの来訪等、楽しみ事や活躍できる場面づくりをして、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週末、気分転換ができるように家族と一緒に外出して頂いている利用者もおられる。月一回は季節を感じて頂けるような外出支援を行っている	事業所周辺の散歩や外庭での外気浴、日光浴、季節の花見(梅、桜、菖蒲、コスモス、紅葉)、ドライブ(周東町内、中山湖)、初詣、馴染みの店で買物、近くの駅舎、イルミネーション見学等に出かけている。家族の協力を得て結婚式への参加や外出、外食、買物等、本人の希望に添って戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	18名の内何名かは自分でお金を所持しておられる。・・が、よく自分で隠しその隠し場所が分からなくなってしまうことは多い。一緒に探し見つけると、とても喜ばれる		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持しておられる利用者が1名おられ、自由に連絡を取り合っておられる。他の方が電話したい場合は施設の電話を利用して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は共有フロアで過ごされることが多い。共有フロアでは畳を置いており、自由に座ったり、車イスの方は足を上げて頂いたりしている。またソファに座り、テレビを見たり、ボール遊び等のレクも安全に配慮して行っている。天井が高く明り取りの窓から光が入り、居心地よく過ごせるような造りになっている	天井の高い木造の平屋造りで、リビングは天窓からの自然光で明るく広々としている。室内には季節の花を飾り、テレビやソファ、机、椅子がゆったりと配置しており、畳コーナーと併せて、利用者が自由に思い思いの場所で過ごせるように工夫している。活動意欲を触発するレクリエーション用具が目につくように廊下に置いてある。壁面には活動写真や有名歌手の訪問写真が飾っており、楽しい日常の様子が伺える。温度や湿度、換気に配慮して、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	吹き出しで一人でひなたぼっこされる方がおられるので、イスを置いて座れるようにしている。畳があるので並んで座り、話をされている利用者もおられる		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自分の部屋だと分かりやすいように使い慣れた物を持って来て頂くようにしている。配置等は家族と相談しながら使いやすいうように工夫して行っている	箆笥、3段ボックス、パイプスタンド、机、籐椅子、仏壇、テレビ、時計、お茶セット、ポット、整容道具、ぬいぐるみ、床ワイパー、車椅子等、使い慣れた物や好みのものを持ち込み、家族写真やカレンダーを飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。仏壇に毎朝、仏飯と水をお供えしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ワンフロアなので自由に行き来して頂いている。ユニット間でフロアごとに別れることがないように、職員全員で協力しながらトイレに案内したり必要な介助をして安全に過ごせるように工夫している		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 秀東館 虹

作成日: 令和 2 年 5 月 18 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故発生時に備えて基本的な訓練を定期的に行っているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける。	演習(AED使用も含め)を取り入れた定期的な研修を行う。その際、研修のレポートを出してもらい理解度を確認していく。外部での講習案内を行い参加を促す。	12ヶ月
2	36	災害時の訓練では地域住民の参加を得ているが、人が限定されているので協力体制が整っていない。	地域との協力体制の構築ができる。	訓練に参加頂けるように、事前に地域向けの情報を出す。また運営推進会議において都度協力をお願いを行い、訓練へ参加をして頂ける方を増やしていく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。